

C・S だより

令和7年12月15日
三校合同発行

11月13日(木)、赤塚小学校を会場に、第3回学校運営協議会(小中合同会)兼赤塚中学校区保・小・中連携推進協議会秋季研修会が開催されました。

全体会での各校の前期学校評価の報告の後、3つの分科会で協議を行いました。

ねらい

将来の地域を担う子どもの育成について「熟慮」と「議論」を重ねて課題解決を目指すとともに、赤塚中学校区の6つの園・校の連携を深めることにより、学力向上と健全育成を目指す。



各分科会の様子についてお知らせします。

第1分科会『学習指導部会』 テーマ：自分の考えを自分なりの方法で表現する子を目指して

学習指導部会では、参加者19名が3つのグループに分かれ、この日参観した赤塚小学校の授業の様子を基に討議を行いました。どのグループでも教員・保護者・地域の方それぞれの立場での感想や質問等、活発な意見の交換がされました。

タブレットの活用

- 目的に応じた使い方ができている
- 表現方法の幅を持たせることに役立っている
- 家でも楽しく学んでいる

授業の様子

- 教師の話をうなずきながら聞いている＝授業に集中している
- 自分の意見を積極的に発言し、教師は児童の発言を大切にしている＝対話形式
- 自由な発言で意見の交流があった＝支持的風土の醸成
- 自分の考えを自分なりの方法で自由に表現できている



その他

- 小学校の特別支援学級間で、畑などの交流があるといいのではないかと
- 小学校で指導された事が中学校でも生かされている
- 小学校では、絵・写真・音声・文字等いろんな方法を用意して、自分の好きな方法で表現させるやり方をしている＝『自分なりの方法で表現する子』
- 中学校では、相手に上手く伝わった、伝わらなかった等の経験を経て、どの表現方法が有効なのかを考えられるようになってほしい

第2分科会『生徒指導部会』 テーマ：いじめを防止するために、学校・家庭・地域でできること

各校のいじめの実態と対応策・いじめ防止の取組についての報告の後、4つのグループに分かれて意見交換をしました。



グループワークで出た意見

- 学校・家庭・地域が一体となって多くの目で見える
- 何かあった時にすぐに何でも話せる関係作り（子ども同士・先生と子ども・親子・その他）
- いじめはいじめる側が100%悪いとしっかり教える
- 話をする→相手を知ること。会話を増やす
- 小さなサインを見逃さず、学校と家庭の連携を取る
- 親など周りの大人の言動の影響も大きい
- 道徳の授業参観を通して、子ども・学校・保護者で共通認識を持つ
- 予防に重点を置く。子どもの心、判断する力を育てることが大事
- 地域で子どもの心配な様子を目にしたら、その場で『どうしたの』など声をかけてほしい

第3分科会『総合学習』 テーマ：地域学習の実践と課題

◆佐潟クリーン活動について

赤塚中学校の全校生徒と赤塚小学校・木山小学校の6年生が参加し、小中連携活動の一環として「佐潟クリーン活動」に取り組みました。清掃後の振り返りでは「仲間と協力できてよかった」「佐潟をきれいにできて嬉しかった」といった感想が多く聞かれました。

一方で、今後の課題として「作業ボランティアが少ないこと」や「活動の目的を子どもたちに分かりやすく伝える必要がある」といった意見もありました。

また、地域でクリーン活動に詳しい方をお呼びして、活動の意義についてお話をさせていただく機会を作ってはどうかという意見がありました。



◆地域連携を中心とした総合学習の取組（各校の報告）

《赤塚中学校》 SDGs への取り組みと職場体験の実施

《赤塚小学校》 地域を知る学習

- ・ 3年生 砂丘地の作物栽培・・・スイカ、大根

- ・ 4～6年生 佐潟の学習（佐潟の歴史、ハスの学習、潟舟体験など）

《木山小学校》 地域を知る学習

- ・ 1・2年生 サツマイモ栽培 3・4年生 スイカ、大根栽培

- ・ 5・6年生 砂丘の学習（地形の成り立ち、砂防林の保全など）

◆CS 委員からの意見・感想

- ・ 佐潟は地域のシンボル。小中学校が連携し継続的に佐潟について学習してもらいたい。
- ・ 赤塚小学校が育てたハスが今年開花した。引き続き協力をお願いしたい。